

2nd Master Class on Aging Southeast Asia 報告書

スタッヴォラヴット・アンヤポーン

(日老医誌 2019 ; 56 : 542)

2nd Master Class on Aging Southeast Asia (MCA) は5月27日から29日までフィリピンのマニラで開催されました。今回私は初めて参加させていただき、非常に貴重な経験になりました。

当学会で講演されていた講師たちは世界の加齢医学分野においてのトップで、講演内容はフレイルおよびサルコペニアを中心に、特に栄養に関する内容で、興味深い講演ばかりでした。

ケースディスカッションで各国の加齢医学の若手医師たちと、よくある老年症候群の課題において意見交換できました。

今回の私の発表は地域在住高齢者における孤食とフレ

イルとの関連についての内容で、オーラルプレゼンテーションを行いました。参加者から色々な質問が出て、様々なアイデアをいただきました。他の参加者の発表も聞けて、役立つ知見を得ることができました。

また、歓迎会などでアジア(日本、タイ、マレーシア、韓国、インドネシア、フィリピンなど)の若手医師たちと交流機会も多く、有意義な時間を過ごすことができました。学会が終わってもこの仲間たちの繋がりがまだ続いています。今回の素晴らしい経験や知識をこれからも生かしていきたいと思います。そしてまた今度機会があれば、参加させていただきたいと思います。

